



卒業生にとっての我が母校

帝京大学小学校 校長 石井卓之

昨年末、2025年4月1日に開講するZEN大学の出願者数が受付開始から1か月を経ずに、1,000名を超えたとの発表がありました。系列のN校やS校からの生徒が51%で、高校3年生が62%、専願率は94%であり、私が考えていた以上の人気でした。また、不登校支援としてメタバースを活用している認定NPO法人のカタリバやVRChatを学校生活のような体験を通して学ぶ私立VRC学園など、多様な取り組みがものすごいスピードで展開しています。

一方、学校の普遍的な役割の一つに「集団の中で学ぶこと」があると思っています。私の世代の昭和の学校は「全体主義的な考え」が強く、私も多分にその影響を受けていました。教師になってからは「全員が同じ方向で行動することをよし」として学級を運営してきました。しかし途中で、私と子どもたちとの関係性がうまくいけなくなりました。そこで、子どもを中心に置きながら、ゴールは実態に合わせて変えていくという指導に変えてから関係性は改善されました。「ダメなものはダメ」は昔も今も変えてはいませんが。

昨年度の卒業生で開智所沢中の国際クラスに入学した生徒が、国際バカロレア候補校の課題として、2学期末にボランティアに来ました。その企画書は、本校が行っている探究の活動と同じ方向性でした。ゴールイメージは以下の5つです。

- ・教室で学んだことと、地域社会で見聞きすることとの間に本物のつながりを築く。
- ・概念、スキル、知識を応用する
- ・地域社会の複雑さを探究する
- ・より自信と責任感を持つようになる
- ・学校の教室を超えて、現実の世界で「行動する人」となる

本人と話をすると、帝京大学小学校で行っている探究の授業と同じような学びをしているとのことでした。国際クラスなので体育、音楽、技術は全て英語で授業が行われているのは、バカロレアを意識しての取り組みが進んでいることを感じました。

自ら課題を設定し、解決に向けて各種調査をしたり、実施に体験をしたりする学びの過程は、これからの社会において、求められている学びです。中学校で小学校での学びが活かされていることを実感できたこと、話を聞いてとてもうれしく思いました。このように、卒業生が「試験が終わったので」「大学が決まったので」「就職が決まったので」など、多くの卒業生が成長した姿を見せに来られる場があることも、本当に素敵だと思います。

職員室の窓

もうすぐ節分です。本校の節分集会では、子どもたちが自分たちから追い払いたい「おに」をそれぞれが書き、集会で豆まきをして「おに」を追い払うのが恒例です。子どもたちの「忘らんぼうおにを追い出したいんだよね」「物を散らかしっぱなしにするおにをやっつけたい」などの言葉を聞きながら、自分にも思い当たる節があるな…と心の中で「わかる、わかる」とつぶやいています。いろいろと追い出したい「おに」はいますが、つい面倒になって運動不足になってしまう私は、今年こそ「運動したくない鬼」を追い出して、健康的な生活を送りたいと思っています。



《教諭 古野美香》